



平成 29 年 2 月 14 日

各 位

会 社 名 アーキテクト・スタジオ・ジャパン株式会社  
代表者名 代表取締役社長 丸 山 雄 平  
(コード番号：6085 東証マザーズ)  
問 合 せ 先 取締役 管理本部所管 長 尾 康 三  
(TEL. 06-6363-5701)

### 特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 3 月期第 3 四半期において、下記のとおり固定資産の減損損失を特別損失に計上するとともに、平成 28 年 11 月 4 日に公表いたしました平成 29 年 3 月期通期業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 特別損失の計上

当社事業において、営業活動から生じる損益が二期連続してマイナスとなる見込みであり、減損の兆候が認められたことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

#### 2. 平成 29 年 3 月期 通期業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,528	百万円 15	百万円 15	百万円 △15	円 銭 △9.39
今回修正予想 (B)	1,365	△80	△80	△270	△169.17
増 減 額 (B-A)	△163	△95	△95	△255	—
増 減 率 (%)	△10.6	—	—	—	—
(ご参考) 前期通期実績 (平成28年3月期)	1,279	△90	△90	△121	△76.64

#### 修正の理由

当第 3 四半期累計期間（平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日）の売上高及び営業利益の見込値と同期間の実績値に乖離が生じ、第 4 四半期の案件仕掛状況から成約予想を見直した結果、通期において従来予想売上高 1,528 百万円及び予想営業利益 15 百万円の達成は厳しいと判断しましたので、通期業績予想値を修正することといたしました。

当社は ASJ アカデミー会員の獲得にあたり、従来型のイベントに加え、建築家情報空間 ASJ CELL への来店や WEB 媒体での自社会員の獲得を推進してまいりました。また、プランニングコースへ進んだ会員へ直接関与することで、リードタイム及び成約率の改善を行い、付加価値の高い営業支援を加盟スタジオや登録工務店に提供し、高ロイヤリティ料率での成約を推進してまいりました。しかしながら、第 3 四半期累計期間の実績において、平均受注料率が予想の 3.7%から 2.9%へ 0.8% 下回り、また工事請負契約金額も予想の 10,535 百万円から 9,922 百万円と予想を 613 百万円下回ったことが主要因で、スタジオロイヤリティ売上が予想を 120 百万円下回りました。このため、第 4 四半期での工事請負受注予定金額及び予定受注料率をもってスタジオロイヤリティ売上の達成が難しく、他の売上での補完も難しいと判断したものであります。

売上高については、前回予想値 1,528 百万円から 163 百万円下方修正し 1,365 百万円となる見込みであります。

営業利益は、販売費及び一般管理費を従来予想値より 60 百万円削減する見通しですが、売上高の減少見込みを補うには至らず、前回予想値 15 百万円から 95 百万円下方修正し営業損失 80 百万円となる見込みであり、経常利益も 95 百万円下方修正し経常損失 80 百万円となる見込みであります。また、当期純利益につきましては、経常利益の下方修正に加え上記 1.記載の特別損失の計上により、当期純損失 270 百万円となる見込みであります。

以 上

(注) 本資料に掲載されている将来の見通しに関する事項については、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績を保証するものではなく、実際は今後の様々な要因によって変動する可能性があります。